

国臨協関信支部 学術委員会 Q&A 入力用紙

問い合わせ		
受付日	令和 1 年 8 月 19 日	
質問者	施設名	
	氏名	
	mail	
	☎	
問い合わせ方法 ☐ 電話 ☒ メール ☐ その他 ()		
質問領域	輸血検査部門	
質問内容		
輸血後感染症検査について 当施設の輸血療法委員会にて、輸血後感染症検査の実施率について臨床側から質問がありました。霞ヶ浦医療センターにおける上記検査の実施率は昨年ベースで約12%でした。この実施率が他施設と比べて、良いのか悪いのか比べる基準データがありません。輸血・細胞治療学会での指針や、他施設での実施率などを知りたく質問をさせていただきました。輸血後感染症検査の現在の情勢も併せてお教え頂けたらと思います。		

回答内容		
対応日	令和 1 年 8 月 20 日	
対応者	施設名	国立がん研究センター東病院
	氏名	阿出川 裕子
回答内容		
輸血後感染症検査について 学会発表などを確認すると検査の代行入力など積極的に取り組んでいる施設は70%台もありますが、担当医や患者へのお知らせなどを行っている施設で45～60%といったところでは積極的に実施している施設とそうでない施設に2分しています。当院でも10%台の実施率でしたが、病院機能評価の受審にあたり「実施率は30%台は必要」という意見を頂き、科ごとに対象患者一覧を配布し現在の平均は35%です。 しかし、2018年5月26日（土）の第66回日本輸血・細胞治療学会総会（宇都宮）のシンポジウム「輸血後感染症検査の現状とあり方」にて「輸血後感染症検査の実施意義の見直しが必要であること」が学会として提言されました。（http://yuketsu.jstmct.or.jp/summary/summary_views/） これを受け、今回の病院機能評価では輸血後感染症については審査員から触れることはありませんでしたし、次回の審査基準から輸血後感染症は外れる可能性が高いとおっしゃっていました。 日赤も国も輸血後肝炎の歴史がある以上は輸血後感染症検査は必要という見解は変わらないと思います。しかし、指針には「輸血後に感染が疑われる場合は検査を実施する。」とありますし、学会の提言もありますので今後は見直されると考えます。 ちなみに、日本輸血・細胞治療学会が行っている輸血機能評価認定（I&A）の輸血後感染症検査関連の基準は①輸血前の検体保管をしていること、②輸血後の感染症検査の実施率が50%以上です。しかし、認定項目ではなく重要事項なので、満たしていない場合も「望ましい」とコメントが返るだけで認定は行われるのが現状です。 解りにくい点、何かご不明な点等ございましたら、再度ご連絡頂ければと思います。よろしくお願いいたします。		

- ※ 対応後1週間以内に本ファイルを関信支部までメール送付してください。
- ※ 記載内容については、匿名化して関信支部ホームページに掲載する場合があります。
- ※ お問い合わせ、ファイルの送付は下記までお願いします。

【国臨協関信支部 学術】

kanshin@kanshinshibu.org

国臨協関信支部学術	
受領年月日	令和 元 年 8 月 20 日
受領者氏名	吉田 茂久(学術担当 副支部長)

2019. 6. 17 国臨協関信支部